

平成29年度 入学試験問題

国語

九州国際大学付属中学校

【注意事項】

- 1 開始合図のチャイムが鳴るまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
- 2 開始合図のチャイムが鳴ったら、最初に解答用紙と問題用紙に受験番号・氏名を書きなさい。
- 3 試験時間は50分です。
- 4 解答はすべて、問題の指示にしたがって解答用紙に記入しなさい。
- 5 問題用紙で、印刷がはっきりしないところがあったら、静かに手をあげなさい。
- 6 答案ができあがっても、終了合図のチャイムが鳴るまで静かに着席していなさい。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

【訂正】

国語の問題文に誤字がありましたので、お詫びして訂正いたします。

4ページ

二

中の一行目 下の方

誤 「離れ離れにになつた母…」 ※（「に」が一つ多い）



正 「離れ離れになつた母…」

□ 次の文章をよく読んで、あととの問い合わせに答えなさい。字数指定のある問題は、句読点なども一字と数えます。

ヒシの実は両側に二本の鋭いトゲがある。忍者が追手から逃れるためにまく「まきびし」も、もともとはこのヒシの実だった。ただし、ヒシが鋭いトゲを持っているのは、何も忍者の助太刀をするためではない。

ヒシの実は水に浮いて、水の流れによつて実が散布されるようになつていて。とはいふものの、いつまでも当てのない漂流生活を続けるわけにはいかない。どこか適当な地に漂着して、新しい生活を始めなければならないのだ。そのときに役立つのが、この二本のトゲである。トゲが浮遊物や①キシベにひつかかって、定着することができるのである。□A、それだけではない。①ヒシのトゲにはもつと大きな野望が秘められているのだ。

漂流して新天地に移動するといつても、ヒシが生活する池や沼では流されて移動できる範囲は限られている。小さな池ならなおさらである。大冒險の大冒險の漂流をしたつもりが、実はもといたどころに戻つただけだった、ということにもなりかねない。これでは、ヒシの冒險心は満たされない。②井の中の□※で終わるつもりはないのだ。

羽を休める水鳥たちが語る広い世界の話に、ヒシの実は冒險心を刺激されたのだろう。そして、水鳥が大空に飛び立とうとするそのとき、ヒシの実のトゲは渡り鳥の羽毛のなかにしつかりと突き刺さったのである。北欧の物語、『ニルスのふしぎな旅』では魔法で小さくなつたニルスが、今まさに飛び立とうとするガチョウの体にしがみついて冒險の旅に出発する。ヒシの実もニルスがやつたように水鳥にくつづいて、まだ見ぬ土地を目指すのである。

さて冒險の③ス工に新しい池にたどりついたヒシの④クらしはどうだろう。熟した実は重くなり、やがて池の底に沈んでしまう。そこで冬を越し、春になると水中から芽を出すのである。芽を出したヒシは大急ぎで水面を目指す。ヒシは水面に葉を広げてるので一見すると浮き草のようにも見えるが、池の底に根を張り、そこから茎を水面まで伸ばしている。③しつかりと地に足をつけているのだ。

水中を伸びる茎からはひげのような水中葉がたくさん出ている。表面積を増やして、水の中に溶けた酸素を効率よく⑤キュウシユウするしくみだ。魚のえらと同じアイデアである。やがて水面にたどりついたヒシは、三角形をした本格的な葉を広げる。葉は葉柄の部分がふくれて浮き袋のように工夫されているので、しつかりと葉を浮かせることができる。□B葉の表面には光沢があり、水をはじくので浮きやすい。水中の葉と水上の葉の機能と構造をはつきりと分けているのである。

④花も水上と水中とを巧みに使いわけている。夏になるとヒシは小さな白い花を水上に咲かせる。虫に花粉を運んでもらうためには、

花は水の外になければならないからである。ところが、咲き終わった花は水の中へと潜もぐってしまう。水の外にはヒシの実を狙ねらう虫が多い。
そこで、外敵から身を守るために水の中に潜ひくるのである。やがて、水の中で熟したヒシの実は茎を離れ、 秘密④キチからあらわれた宇宙船のように静かに水面に浮かび上がつてくるのだ。

問一　――①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二　A S C にあてはまる言葉を、次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかし イ ところで ウ まるで エ つまり オ さらに

問三　――①「ヒシのトゲにはもつと大きな野望が秘められているのだ」とあります。が、「野望」とは具体的には何を指していますか。
「こと」に続くように本文中から十字で探し、書きぬきなさい。

問四　――②「井の中の※」とは、ある生物の名前を入れて「世間知らず」という意味になります。※に入る言葉をひらがなで答えなさい。

問五　――③「しつかりと地に足をつけているのだ」とありますが、これは言いかえるとどういうことを表現していきますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 堅實に生きていくために安定した土台をきちんとついているのだということ。
イ なんとかがんばって地面に根がくつつくように努力しているのだということ。
ウ 池の底に張った根が、ちょうど人間の足のようになっているのだということ。
エ これ以上動きまわる必要はないとして、その場で一生過ごすのだということ。

問六　――④「花も水上と水中とを巧みに使いわけている」とありますが、花は何のために「水中」に入るのですか。その答えにある部分を本文中から探し、十字内で書きぬきなさい。

(稻垣栄洋『いながきひでひろ 身近な雑草の愉快な生きかた』より)
C 秘密④キチから

問七

この文章に書かれていることとして、正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ヒシのトゲは鋭い上、毒を持つていて、忍者の「まきびし」として使われるようになつた。
イ 渡り鳥たちが池や沼で羽を休めることが、ヒシの生活に大きな影響をおよぼしているのである。
ウ 水中にいるときのヒシは魚のえらのようなしなくみを持つた茎によつて、水中の酸素を得てゐる。
エ 池の底で冬を越したヒシは、春になると水中で小さな白い花を咲かせ、そのまま成長していく。

問八

この文章の話の進め方についての説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 具体例や調査の結果などを紹介することによつて、説得力を高めながら結論へと導いている。
イ 人でないものを人に見立てる擬人法(ぎじんぽう)を使うことで、イメージしやすいように話を進めている。
ウ 問題提起の答えとなる部分を最後に明かすことで、読み手の興味を引きつけようとしている。
エ キーワードとなる言葉をくり返し用いて、全体的なつながりがわかるように話を進めていく。

〔二〕 次の文章をよく読んで、あととの問い合わせに答えなさい。本文には一部省略があります。また、字数指定のある問題は、句読点なども一字と数えます。

大志は小学三年生の男の子。父・一志あての封筒と写真を発見した大志は、その写真から、二歳のときに離れ離れになつた母・琴美が、香川県にある小豆島にいると考えた。母に会いたい大志は、近所に住む小学六年生の俊也（あだ名は「博士」）に相談にやつてきた。

「お父さんには、内緒なんだ。だって、僕、ひとりで行くんだもん」

「え？ ひとりで？」

大志の言葉に、博士がびっくりしたように大きく眼を見開く。椅子から立ち上がり、大志の①正面に胡坐を搔いた。大志自身も、博士以上に驚いていた。小豆島に、ひとりで行くことを決めた自分に。

「お前……」

「俊也、入るわよ」

博士の母の声。大志はドラゴンボールのバッグから算数のドリルを取り出し、ガラステーブルに置いた。ドアが開いた。慌ててドリルを覗き込むふたり。

「はい、どうぞ」

博士の母が、ガラステーブルの上にロールケーキが載つた皿と、大志の前にオレンジジュースのグラス、そして博士の前には牛乳のグラスを置く。

「おばさん、ありがとう」

「このコ、牛乳しか飲まないのよ。なんだか、赤ちゃんみたいでしょ」

言って、博士の母が微笑んだ。

「お母さん、勉強の邪魔だからはやく出て行つてよ」

「はいはい、お坊っちゃん」

博士の母が、冗談っぽい②口調で返す。

「もう、お母さんつ」

顔をまつ赤に染め、抗議する博士。いつも * びた博士のこんな姿を見るのは初めてのこと。大志は、ふたりから逸らした視線をオレンジジュースに落とし、ストローを口に含んだ。友人同士みたいに仲のいいふたりをみていると、大志の心はつらく、寂しくなった。

「わかりましたよ。母さんは退散します」

博士の母がおどけつ部屋を出てゆく。

「ごめんな。まつたく、いつまでも子供みたいなんだから」

いつもの * びた口調に戻った博士が、牛乳を飲みながら肩を竦めた。

「で……なんだっけ？ あ、そうだ。小豆島にひとりで行くって、本気なのか？」

「うん。本気だよ。僕、小豆島に行くんだ」

ロールケーキをフォークでつつ突き、大志は力強く言つた。さつきまでは、なんとなく口にしていたのだけれど、いまは違ちがう。博士と、博士の母の仲睦なつかしい姿が、大志の決意を固めた。

「待つてろよ」

博士が勉強机の抽出から教科書みたいな本……地図帳を取り出し、ロールケーキをパクつきながらにかを調べ始めた。大志も身を乗り出し、地図帳を覗き込む。

「お父さんに訊いてみないとわかんないけど、多分、小豆島には新幹線や船に乗らないと行けないと思う」

地図帳を指でなぞついた博士が、難しい顔をして言つた。（中略）

「おい、大志。どうして、お父さんに内緒で小豆島なんかに行きたいんだ？」（中略）

「僕のお母さんは……」

大志は、母がデザイナーであること、仕事でパリに住んでいること、毎週土曜日には手紙がくること、C 欠かさず返事を出していること、一志の本の間に挟んであつた写真と手紙のことを話し、最後に、その写真と手紙の入つた封筒を博士に渡した。

「この写真は、たしかに小豆島のものだね。それに、去年の十月に琴美つて人が撮影したと書いてある。琴美つていう人は、お母さんと同じ名前の別の人じゃないのか？」

首を傾げながら写真と手紙を見比べていた博士が、大志に言つた。

「絶対に、写真を撮つたのはお母さんだよ。だって、ほら」

大志は、二歳の自分と母が写つてゐる、コスモスが咲き乱れる小高い丘の写真を博士にみせた。

「あれ、同じ場所だ。じゃあ、やっぱり、この写真を撮つた琴美つて人は、大志のお母さんなんだな」

博士が、二枚の写真を交互に眺めて言った。

「お前、本気なのか？」

大志の瞳をじっとみつめ、博士が真剣な表情で訊ねてくる。

「僕、本気だよ」

大志もまた、①博士の瞳をみつめ返して力強く頷いた。

「よし。今夜、お父さんが帰つてきたら、小豆島までの詳しい行きかたとか、どのくらいお金がかかるかとかを訊いておいてやるよ。心配しなくとも、大志のことは言わないから安心しろ。俺、ボーカウトやってるから、いつもそういうこと訊いてるんだ。ウチのお父さんも、昔、ボーカウトをやってたんだ」

博士が、自慢げに胸を張る。大志は、そんな三年上の上級生を頼もしく思った。

「ありがとう、俊也兄ちゃん」

「でも、大変なのはこれからだぞ。小豆島までの行きかたがわかつても、お金の問題や、お前んちのお父さんになんて言つて出かけるかとあるだろ？」

大志は、博士に言われて初めて、家を空ける理由を父にどう説明すればいいのかを考えた。もしかしたら、何日間も家に帰れないかもしれないのだ。

「僕、お父さんに手紙を書いて行くよ。お母さんに会いに行くって」

「え？ 本当のことと言つたら、すぐに連れ戻されてしまうぞ」

「お父さんは、いつも夜の八時頃にしか帰つてこないから、朝から出かければ大丈夫だよ」

「でも、怒られても知らないぞ？」親に黙つて、家を出て行つちやうんだからな

博士が、頭に二本の人差し指を立てて鬼の②角を作つてみせた。大志は、②唾を飲み込んだがら頷いた。

「そうか。それで、いつ、小豆島に行く気なんだ？」

「明日」

大志は、迷わず答えた。そう、大志は、小豆島に行けば母に会えると信じていた。母が小豆島にいるのならば、どうしてパリから手紙が送られてくるのか、どうして父はそのことを隠しているのか、大志にはわからない。けれど、そんなことは、大志には重要ではなかつた。大志の心の中は、一分でもはやく母に会いたいという気持ちで一杯だった。

馬鹿。明日なんて無理だぞ。用意しなきやならない物も一杯あるし、新幹線や船に乗るなら切符だって買わなきやならない。とにかく、明日、十二時に野方公園にこいよ。お父さんから聞いた話をいろいろ教えてやるから。お前は、いつでも出発できるように、持つて行

く物を揃えるんだ。俺も、いろんな物を用意しておいてやるから」

野方公園は、大志が自転車の練習中に博士と初めて出会った場所だった。

「ありがとう」

大志は頬を上気させ、ペコリと頭を下げた。

「でも、本当に本当に知らないぞ。バレたら、物凄く怒られるぞ？」

④構わない、と大志は思った。父に怒られるのは怖いけれど、怖さより、母への恋しさが勝っていた。

「もう、決めたんだ」

大志は言うと、オレンジジュースを飲み干した。緊張と興奮で、喉がからからだった。博士は、□＊みたいに腕を組み、③じつとなにかを考えていた。

「どうしたの？」

「大志。お前は、明後日、俺と一緒に河口湖に行くんだ」

「え？ だけど、僕は小豆島に……」

「わかってるって。だからさ。俺らと一緒に河口湖に行くってことにはすれば、四日間はバレはしない。四日もあれば、小豆島に行けばいいんだよ」

「行くことにする？」

「そう。そしたら、お前んちのお父さんも大志がいなくても不思議に思わないだろ？ 出発の朝に班長に、大志はお腹が痛くて行けなくなりました、って俺が言つてやるから。お前はそのまま家を出て、小豆島に行つて帰つてくることができるだろ？」（中略）

「すっごい。俊也兄ちゃん、天才だよ！」

大志は手を叩いてはしゃぎ、歓声を上げた。

「だろ？ 今夜お前は、お父さんにこの申込用紙をみせて、俺と一緒に河口湖のキャンプに参加したいって言つんだ。道具とかは、俺が用意しておくからつて。お前のお父さんから電話がかかってくるかもしれないから、ウチのお母さんにも大志がキャンプに参加するつて言つておくから」

④今まで弾んでいた大志の胸が、急に締めつけられたように苦しくなった。

大志は俯き、氷だけになつたグラスをぼんやりとみつめた。

「どうしたんだよ？」

心配そうに、博士が訊ねてくる。

「お父さんに嘘をつくの、悪いことだよね」

大志は、ポツリと言つた。

「なんだ、そんなことか。そりや、嘘はよくないさ。でも、先に嘘を吐いたのは、お前のお父さんのほうだろ？ 大志は何年間も、ずっと、お母さんがパリにいると信じてたんだろ？ 今度の嘘は、悪い嘘じやないさ。それに、お父さんに本当のことと言つちゃつたら、きっとお巡りさんまわが大志を連れ戻しにくる。この方法が一番なんだ。元気出せよ」

博士が、大志の肩を励ますように叩いた。

「悪い嘘じやない……。そうだよね？ 先に嘘を吐いたのはお父さんだし、お母さんに会いに行くことは、悪いことじゃないよね？」

「ああ。大志は、なんにも悪くない」

⑤博士のひと言で、梅雨時の空のように曇つていた大志の心が、夏空のように晴れ渡つた。

(新堂冬樹『僕の行く道』より)

問一　―― ③ ④ の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

問二　―― □ * に共通して入る言葉を、漢字二字で考えて書きなさい。

問三　―― ① 「博士の瞳をみつめ返して力強く頷いた」とありますが、このときの大志の気持ちをわかりやすく表した二字の熟語を本文中から探し、書きぬきなさい。

問四　―― ② 「唾を飲み込みながら頷いた」とありますから、ここから、父に怒られることも分かつた上で、母に会いにいこうと覚悟している大志の様子がうかがえます。なぜそれほどの覚悟ができたのか、その理由にあたる部分を、「から。」に続くように本文中から三十一字で探し、初めと終わりの五字を書きぬきなさい。

問五　―― ③ 「じつとなにかを考えていた」とありますが、「なにか」とは何ですか。「うどいうこと。」に続くように、本文中から十一字で探し、書きぬきなさい。

問六　―― ④ 「いまままで弾んでいた大志の胸が、急に締めつけられたように苦しくなった」とありますが、このときの大志の気持ちをわかりやすく説明しなさい。

問七

（5）「博士のひと言で、梅雨時の空のように曇っていた大志の心が、夏空のように晴れ渡った」とあります。このとき、

大志の心にどんな気持ちがわいてきたと想像できますか。大志になつたつもりで、大志の心の中のセリフを考えて書きなさい。

問八

この文章の中に登場する人物について説明したものとして正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 博士は親をうまくだます方法をたくさん知っているので、とても頼りになると思い、大志は真っ先に相談に行つた。
 イ 博士の母は明るい人で、博士とよい関係を作っているつもりだが、博士はそんな母親のことを邪魔だと思つていい。
 ウ 大志は自分の感じたことを素直に表現する少年だが、あまり細かいことは考えず、いろいろと知らないこともある。
 エ 大志の父・一志は日ごろから大志の言つことを信じず、すぐに怒るので、大志は誰よりも一志のことを恐れている。

三 次の各問いに答えなさい。

問一

漢字の読みには音と訓があります。次の熟語の読みは□の中のどの組み合わせになつていますか。ア～エの記号で答えなさい。

- ① 星座 ② 若葉 ③ 場所

ア 音と音	ウ 音と訓
エ 訓と音	イ 訓と訓

問二

次にあげる慣用句には体の一部の名前が入ります。□にあてはまる体の一部の名前を、あとの意味をてがかりに答えなさい。
なお、答えはひらがなでもかまいません。

① □が広い。……知り合いが多く、つきあいが広いこと。

② □が立つ。……技量がすぐれていること。

③ □を落とす。……ひどくがっかりしたり、気力を失つたりすること。

問三

次の□に、あとの□の中のひらがなを一つずつ選び、漢字になおして、類義語(〃)、対義語(↑↓)を完成させなさい。
ただし、解答欄には□に入る漢字一字だけを書くこと。

- ① 質疑 〃 質 ② 未来 〃 来 ③ 退職 ↑ 職 ④ 容易 ↑↓ 困

なん・しょう・もん・けい・しゅう

平成二十九年度 入試問題解答用紙	五 題	九州国際大学 附属中学校	受験番号	氏名	得点
---------------------	--------	-----------------	------	----	----

一 問一	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ
---------	---	---	---	---	---

問二	A	B	C
----	---	---	---

問三	_____				15°
----	-------	--	--	--	-----

問四					問五	
----	--	--	--	--	----	--

問六	_____				5
----	-------	--	--	--	---

問七		問八	
----	--	----	--

二 問一	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ (がさす)	Ⓓ	Ⓔ (わなぐ)
---------	---	---	------------	---	------------

問二		問三	
----	--	----	--

問四	_____				から。
----	-------	--	--	--	-----

問五	_____				15°
----	-------	--	--	--	-----

問六					
----	--	--	--	--	--

問七					
----	--	--	--	--	--

問八	
----	--

三 問一	①	②	③
---------	---	---	---

問二	①	②	③
----	---	---	---

問三	①	②	③	④
----	---	---	---	---